

まず、気楽に考えてみよう

「見落としちゃいけない。」

このプレッシャーが悪さをします。

先生は最初から「完璧」を求めていますか？
もちろん見落としをしていいわけではありません。

看護師さんも検査技師さんも放射線技師さんも一緒です。

原則は「医師の指示の下」行い、その結果を医師が認めて診断に至ります。
責任転嫁する先生はいないはずです。医師ですからね。

しかし、見ているのは「あなた」なのです。

あなたが見た「印象」を伝える。これがあなたの役目なのです。
ですので、見落とししたこと先生が怒るわけではありません。

先生だって人間です。見落とすことってあるんです。これはこの文章を書いている私にだって、想定されることです。
一つの失敗に悩む必要はないです。それ以上の成功を治めるように努力すればいいんですから。

とは言っても、やっぱり失敗したくないですよ。

皆さんは、それを的確にお伝えするセミナーを受講するんです。
私の20年以上の経験を出します。もちろん、成功した事例ばかり言うわけではないです。
本当は恥ずかしくて言いたくないのですが、みなさんに同じ失敗をして欲しくないの、
失敗談も惜しみなくお話しさせていただきます。

ですので、みなさんは20年の経験をセミナーで一気に聞くことができるんです。

だから、気楽に構えてみてください。

エコーをはじめる前に皆さんに2つだけアドバイス

エコーは面倒くさがあると下手になります。

エコーは患者さんのことを考えると、とっても上手になります。

これだけでいいんです。

その理由はこのテキストを読み進めるうちに理解していただけたらと思います。

「 技術 」 「 知識 」 「 経験 」

エコーはこの3つが揃って始めて撮ることができます。
これをいっぺんに習得することは容易ではありません。

でも、この中で一番最初に習得しないといけないのはどれでしょうか？

そうですね。「 技術 」です。

注射ができる看護師さん。とってもすごいと思います。
あんなに細い血管に、あの針を入れることができるんですから！！



エコーはそんな高度な技術は必要ありません。
それに、失敗したとしても、また同じ場所を見に行くことができます。
被曝しないから。もちろん痛みもありません。

かといって、全く知識がないと撮れないのも事実です。
では、どのくらいの知識があればよいのか？
そして、どんな知識があればよいのか？

まずは、「 装置を知る 」と言うことです。機械が苦手な人も多いかと思いますが。
ですが、見る相手は「生身の人間」です。
これを怠れば怠るほど、「いい加減な画像」が得られます。
「面倒くさがらない」ということですね。

音を映像に変換しているなら、音を調整すればいいんですよね。
テレビでも音が小さいと 耳を澄ます・・・という人は、あまりいないですよね？
殆どの方がボリュームを大きくするはずですよ。その程度のことだと思ってください。

テレビのボリュームの単位は dB（デシベル）
エコーのゲインの単位も dB
同じものなんですね。

テレビの音が小さくて、（目を近づける・・・のではなく）
耳を澄ます（見えてこ～い・・・と祈るのではなく）のではなく、
ボリューム（ゲイン）をコントロールしてみましょう。

うるさい（まぶしい）時は下げる
小さい（くらい）時は上げる
自分のちょうど聞こえやすい（目的とするものが見やすい）ようにコントロールするんですね。

そうすることにより、診断能力も上げるばかりでなく、迷いを減らす（時間短縮）或いは、
誤診を減らすことにもつながります。

